

楓園

ISSUE
2026 1/31

101

FÛEN [フウエン]
Toyo Eiwa Jogakuin
Public Relations Report

特集

Creators from Toyo Eiwa

さつまいも



どろだんご



糸の交差に導かれて 伝統織物との出会いが ひらいた道

絵から彫刻、織物へ—表現を求める旅

宮古島に伝わる麻織物「宮古上布」の技法を出発点とし、オリジナルな天然素材・植物染料の糸を用いた着物を制作する牧山花さん。牧山さんが今につながる芸術的視点を育むきっかけとなったのは、小学部時代に六本木の裏路地で行ったスケッチでした。看板や雑居ビル、空調設備が並ぶ階段など、都市の裏側の風景を断片的に描くなかで、対象を能動的に見て、描く感覚が芽生えたといいます。

「幼い頃は、集団のなかで自分の居場所を見つけられず、孤独を感じることもありました。ですが、絵を描くことが他者との関係性を築く手段となり、自分の表現方法を見出すきっかけになったと思います。東洋英和では、先生も友人も私の個性やペースを尊重して、そっと見守ってくれたことに感謝しています」

特集

Creators from Toyo Eiwa

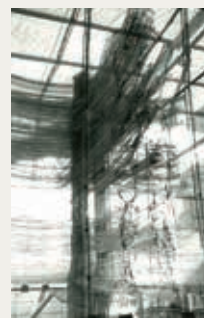
Eiwa Art Gallery
誌上展覧会

牧山 花さん



Hana Makiyama

小学部から東洋英和に学び、高等部を卒業。東京造形大学(絵画科)を卒業後、京都で染織を学び、沖縄宮古島で重要無形文化財である宮古上布の技術を習得。1年間ヨーロッパからアジアを旅し、^{かすり} 紵の技法を用いた織物による空間表現を経て、2006年に着物の制作を開始。夏の着物に特化した布づくりを、デザイン、染め、織りの工程全てを一人で行い、発表を続けている。



"untitled" (1994) /
Tokyo Zokei University
(Tokyo, Japan)

Contents

表紙: 東洋英和の園児、児童、生徒、学生のアート作品

P01 [特集]

Creators from Toyo Eiwa

P09

From the Garden of Kaede

楓の園から [学院 NEWS]

P17

Cartmell's Prayer

[宗教教育委員会]

P19

教員紹介

P21

東洋英和楓の会

「楓園」について皆様のお声を聞かせてください。





"cross point" (2002) /Spiral Garden (Tokyo, Japan)



"natsukoromo" (2024)
exhibition at Nanohanagallery in Hakone, Japan
写真 小林敏伸

高等部を卒業後は美術大学に進学。化学染料である油絵の具に違和感を覚え、表現方法に悩むなかで、牧山さんの関心は絵画から彫刻へと移っていきました。立体作品の制作を通じて、自分の表現したいものに近づこうともがいていたといいます。

「人体をモチーフにした立体作品を制作していましたが、しばらくすると、自分が表現したいことと、実際に形になった作品との間にギャップを感じるようになりました。さらなる壁にぶつかったわけですが、その過程で“点”や“空間”の表現に注目するようになりました」

新たな表現への答えを模索していたときに出会ったのが、京都の伝統的な織物技術。特に、経糸と緯糸の交差(クロスポイント)や、天然染料による微妙な色のグラデーションに魅了された牧山さんは、創作の方向性を大きく転換。糸作りと織りの究極の技術を追い求めた結果、行き着いたのが宮古島の「宮古上布」でした。

迷い、待つ時間が創造性と感性を育てる

宮古島に渡った牧山さんは、4年間、何世代にもわたって受け継がれてきた高度な技術を、親しみを込めて“おばあ”と呼ばれる高齢女性たちから直接学びました。

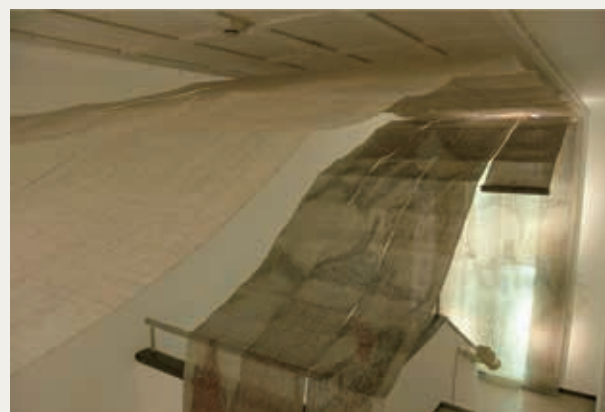
「私が宮古島に行った目的は、伝統工芸に自分なりの解釈を加え、新しい表現を探ることでした。私は島の外の人間で、継承者でもないのに、おばあたちは技術を惜しみなく教えてくれたんです。伝統を現代美術に落とし込む過程では試行錯誤を重ね、経糸と緯糸の交差に奥行きや空間性を加え、さらには視覚だけでなく、触感や肌触りなどの五感に訴える表現を模索していきました」

宮古島で得た伝統技術をもとに、着物という実用的な形のなかに独自の表現を見出した牧山さん。今に至るまでは、美術から「人に使われる工芸」への転換や実用性と芸術性の融合など、多くの決断がありました。

牧山さんの創作は、「待つ」ことと深く結びついています。急がず、素材と対話しながら自身の感覚を磨き、作品に命を吹き込んでいきます。

「現代社会ではすぐに結果を求められますが、学生のうちは自分の興味や才能を性急に判断せず、じっくりと自問自答する時間が必要だと思います。社会的な承認や評価よりも、自分の内なる衝動や“飢え”を大切に、さまざまな角度から自分の感覚を探り、磨いていってほしいです」

自分の独自性を見出し、育むためには、外部からの期待や評価に流されない内なる強さが必要。それは、牧山さんが歩んできた道が何よりの証といえるでしょう。



"cross point No.8" (2005) / Tokyo Wonder Site (Tokyo, Japan)
photo by RICHY YAMAGUCHI

二人または三人がわたしの名によって集まるところには、
わたしもその中にいるのである。

(マタイによる福音書 第18章20節)

これは、主イエスが教会について教えた結びの言葉です。学校には、二人三人どころか遥かに多くの人が集まっていますが、主イエスが共におられる、主イエスの名によって集まる場であることをつい忘れてしまいがちです。礼拝の時間だけではなく、私たちの学校は、御心によって建てられ、主イエスが(また神様が)共にいてくださる場です。困難な状況にあっても、私たちの間にいてくださる主イエスと共に進んで行きましょう。

学院宗教部長(横浜校地) 野田 美由紀

聖書の言葉





「The Revue」(2023) ペンキ、アクリル絵具、キャンバス

揺れ動く感情が線になる 描くことで生まれる命のカタチ

Eiwa Art Gallery
誌上展覧会

高嶋 シオンさん



Shion Takashima

中学部から大学まで東洋英和に学ぶ。スプーンでペンキを垂らす独自の技法を用い、鮮やかな色彩で生き物を描く現代画家。

生きた線にこだわり、命あるものたちへのエールを作品に込め、観る人々に力強く優しい希望を届けている。

偶然の出会いからアーティストの道へ

現代アート作家として活躍する高嶋シオンさん。テレビで偶然見かけた「彫紙アート」との出会いが、アーティストへの道を開くきっかけとなりました。なお、彫紙アートとは、林敬三氏が生み出した日本発のアート。何枚も重ねた色紙をナイフで彫り下げ、奥行きのある半立体的な絵画表現が特徴です。

「彫紙アートにひと目惚れして、林先生のもとを訪ねて学びました。その後、教える立場となり、林先生の一番弟子として活動するようになりました。当時は、絵を描く時間が自分に戻れる唯一の時間で、創作の過程にこそ意味があり、完成した作品にはあまり興味がなく、作品を売ることは考えていませんでした」

転機となったのは、日本テレビ『誰も知らない明石家さんま』の「さんま画商プロジェクト」への出演。彫紙アート作品とアクリル作品で応募し、明石家さんまさんのアドバ

イスでアクリル画に集中することに……。ここから現在の高嶋さんに見られる、新たな表現が広がっていきます。

命を表現する「生きた線」の 原点はダンス

現在の作品は、ペンキをスプーンで垂らし、アクリル絵具で彩色するスタイル。動物をモチーフにする際は、人間と同じ“生命体”として捉え、強弱やスピード感のある「生きた線」で命を表現します。

「動物の性格や生態を徹底的に調べたうえで、鉛筆で何度もデザインをし、スプーンを持ったら一気に仕上げます。描き直しが利かず、線の勢いや揺らぎにはその時の感情が反映されるので、心と身体の集中が整った時にだけペンキを垂らします。そのため、制作中はパソコンやスマホには一切触れません」

表現の土台となっているのは、学生時代のダンスで培った身体感覚。中学部の頃、音に合わせて踊る心地よさに魅了された高嶋さんは、ダンス部に入り、楓祭のステージにも立ちました。

「線に込めるスピードや強弱の根底には、学生時代に打ち込んだダンスで培った感覚があると感じています。線はメロディーを奏できるように、そして色は和音となってその響きを重ねていく……そんな感覚で描いています」



「Rhythm of the Earth」(2023)
ペンキ、アクリル絵具、
キャンバス



「トント」(2021)
ペンキ、アクリル絵具、発泡ボード



「This is My Life」(2022)
ペンキ、アクリル絵具、キャンバス

人と違うからこそ生まれる表現の価値

リアルで上手いから評価されるわけではない世界。いかに人の心に響く自分にしかできない表現ができるかが大切で、作品を見ただけで作者が分かる絵を描きたいと高嶋さんは語ります。

「中高時代は、周りに同調しなければいけないという思いと、自分をもっと表現したい気持ちの葛藤がありました。ですが、さまざまな経験を経て、『人と同じじゃダメなんだ』と思えるようになりました。何よりも大切なのは、自分らしくあることだと思います」

今は、絵を通じて人が笑顔になってくれたり、癒されたり、元気になってくれることに大きな喜びを感じています。

「私が絵を通して伝えたいのは、命の尊さや愛情、平和、多様性です。その根底には、東洋英和で育まれた『人を支えたい、助けたい』という気持ちが息づいています。これからも見る人の心に届く作品を生み出すために、自分の感性を信じて描き続けていきたいです」

「Journey Towards Tomorrow」(2023)
ペンキ、アクリル絵具、キャンバス



東洋英和とアート教育

中畝 治子 × 白石 真子

かつて小学部で図工を教えた
中畝先生と
教え子で現役講師の白石先生が、
東洋英和のアート教育について
語り合いました。

小学生だった白石先生を、中畝先生が教えたという恩師・教え子でもある二人。



表現することの原点は 誰かに認めてもらえる安心感

中畝 私が美術の道に進んだのは、幼稚園の頃から絵が上手だとほめられて、「自分には絵が向いているのかな?」と思ったことが大きいように思います。小学部のときにはすでに、漠然と美術大学に行きたいという気持ちがありました。ただ、小学部は美術クラブでしたが、中高部はバレーボール部だったので、美術だけに打ち込んでいたわけではありません。

白石 私の場合は、父がピアニストであり、最初は音楽の道を志していました。高等部で選択授業を音楽にするか美術にするか迷ったとき、自分が本当にやりたいのは美

術だと気づき、なかでも工芸を選びました。工芸には、見た目の華やかさではなく、実用性のなかに美しさを見出す「用の美」という考え方があり、人の暮らしに役立つものを作ることが、東洋英和の「敬神奉仕」にもつながると感じたんです。

中畝 進路を考えるうえで、東洋英和の環境が与えてくれた影響は大きかったと思います。図工に限らず、小学部の授業は「自由に表現することの楽しさ」を教えてくれる



中畝 治子

Haruko Nakane

東洋英和女学院小・中・高等部卒業。
東京藝術大学美術学部絵画科日本
画専攻卒業、同大学大学院保存修復
技術科(当時)修了。松島瑞蔵寺障壁
画、東寺両界曼荼羅などの絵画模写
事業に参加。2004～2015年、東洋英
和女学院小学部図工科講師。現在、
東洋英和女学院大学生涯学習講座
の講師を務める。



中畝先生が表紙デザインを手掛けた、
東洋英和女学院大学生涯学習講座
2025年度パンフレット。(2025)
水玉のワーク(水彩絵の具)にコラ
ージュ



「さかさま」(2014)
日本画



「おてんば娘」(2010)日本画

場でした。クラス担任の先生も図工の先生も、完成度より「その子らしさ」を見てくださったので、周囲を気にせず、思いのままに表現できる安心感がありました。

白石 私も小学部の図工の授業で、「自分の表現が認められる」という感覚を初めて味わいました。本日いらっしゃる中畝先生と、関隆弘先生に教わりましたが、自分の表現を受け止めてくれる空間のなかで、「図工って楽しい」と心から思えたことを覚えています。東洋英和のよさは、一人ひとりの興味や感性を尊重する教育にあると思います。自分が思い描いた世界を自由に表現するだけでなく、それを先生や友だちと共有し、認め合えるところも英和らしさではないでしょうか。

中畝 私たちの学年では、5〜10人ほどが美術系の大学に進学したと記憶しています。東洋英和は美術に特化した学校ではありませんが、多くの生徒が美大を選ぶ背景には、自由に感性を磨ける雰囲気があったように思います。

白石 美大を受験する過程では、自分が描いたものが評価されたり、点数がついたりするので、精神的に苦しい時期もありました。そんなとき、中高部美術科の山下直美先生にかけていただいた言葉やアドバイス、先生の授業が自分の好きを信じて進める力になっていました。

優劣がない場だからこそ自由になれる

中畝 私が小学部の図工の講師になったのは50歳のときでした。子どもに教えた経験はありましたが、初めて専任の講師になり、改めて子どもたちの自由な表現の素晴らしさに感動しました。以前は、上手になるとか上達することに主な指導の目的があると思っていましたが、一人ひとりの表現そのものに意味があると気づいたんです。

白石 そう気づかれたきっかけがあったのですか？

中畝 私の長男は重度の障がいを持っており、彼を育てるなかで、自己表現の本質的な意味を深く考えるようになりました。上手に描けることと、心から表現したいことはまったく別物です。そもそも美術は優劣を競うものではなく、自分の気持ちを解放するための手段だと感じたんです。子どもたちのあるがままを尊重することがとても大切で、「あなたのことをちゃんと見ているよ」というメッセージが伝わるだけで、子どもたちはもう少しやってみようかなと思えるものです。もう少しやってみようかなと思えるものです。そんな小さなきっかけが、表現することの楽しさにつながっていくように思います。白石先生が図工の講師になったきっかけは？

白石 小学部の同窓会で関先生に再会し、「講師にならない？」と声をかけていただいたのがきっかけです。思いがけず新しい道が示され、授業が始まってみると今まで

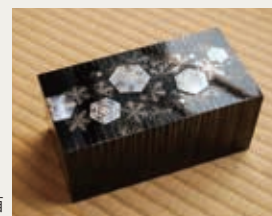
学んできた工芸の知識や経験は驚くほど生かせられると感じました。私は、子どもたちに「天才!」とよく声をかけるのですが(笑)、毎回の授業で児童の素敵なおところを見つけ、伝えるようにしています。教える立場になってみて、中畝先生がおっしゃった表現に優劣はないことや、個々の表現を認める姿勢が、子どもたちの創造力を育むと実感しています。

今の時代に求められるアート教育とは？

中畝 アート教育の意義を考えると、もう一つ大切な視点があります。それが、アート界におけるジェンダーの問題です。たとえば藝大に女子学生はいても、女性教授の数は限られます。これまで、女性というだけで正当に評価されなかったアーティストも多くいたと思います。近年は、抽象画家のヒルマ・アフ・クリントのように、長く埋もれていた女性アーティストを再評価する動きもあり、まだ十分とはいえませんが、こうした変化が広がっていくことに希望を感じています。

白石 工芸を学ぶ者としては、「実物に触れる」ことの大切さを強く感じています。デジタル社会だからこそ、実際に手で触れることの意味が大きくなっているのではないのでしょうか。子どもたちには、材料の質感や重さ、温もりを直接感じることで、自由に豊かな表現を育んでほしいです。

中畝 現在、東洋英和女学院大学の生涯学習講座で教えていますが、無心で絵を描くことには瞑想と同じ効果があるともいわれています。子どもだけでなく、大人にとっても表現することは楽しいものです。アートには「こうしなければならない」というルールはありません。多様性が重視される今だからこそ、皆さんには、のびのびと自分の表現を貫いてほしいです。

「すえひろがり」(2025)
乾漆蒔絵螺鈿水指

「銀花」(2023)蒔絵螺鈿箱



白石 真子

Mako Shiraitshi

東洋英和女学院小・中・高等部卒業。東京藝術大学美術学部工芸科卒業。現在、同大学大学院美術研究科工芸専攻漆芸研究分野 修士2年に在籍しながら、東洋英和女学院小学部図工科非常勤講師を務める。



「夜風」(2024)切り絵、アクリル、日本画、箔押し

切り絵作家・デザイナー

タンタンさん

Profile 小学部より東洋英和で学び、高等部の途中でアメリカ留学。中学時代の消しゴム判子制作をきっかけに切り絵を始める。「切り絵工房『鳥編』『花編』」(高橋書店)を出版。Maison & Object in Parisなど海外の展覧会への出展も数多い。

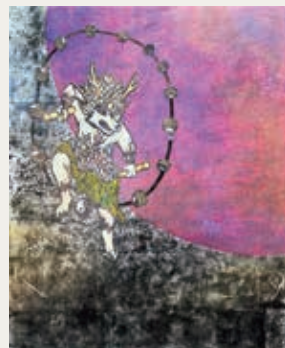
「東洋英和とアート」

美術の先生方一人ひとりが、教育者であると同時にアーティストであり、授業に限らずアートを吸収できる環境にあったと思います。

Check
Homepage



「銀河鉄道の夜」(2005)
切り絵、紙、デジタル
(manoworks collaboration)



「風神雷神(連作)」(2025)切り絵、箔押し、鍍箔技法、日本画

ステンドグラスアーティスト

石井 千晶さん

Profile 1993年、東洋英和女学院大学人文学部卒業。アメリカglass schoolに留学後、国内でも学ぶ。ヨーロッパで誕生したステンドグラスを、日本人が作ったらこうなる、という日本人である個性を生かした唯一無二の作品作りを目指す。

「東洋英和とアート」

キリスト教の授業があったことで、教会の窓の受注制作の時に施主様とお話がスムーズにできます。

Check
Homepage



Eiwa Art Gallery 誌上展覧会

東洋英和と ユニークな 芸術家たち



藤沢市江の島
コッキング苑内展示作品
(2024)

茅ヶ崎市と姉妹都市ホノルル市
への記念贈呈作品(2017)

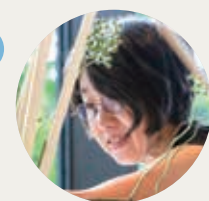
草月流 華道家

石塚 喜三枝さん

Profile 中学部から大学まで東洋英和で学ぶ。「いけばな」をツールに自分を表現する喜びを伝えるためスタジオをオープン。国内のみならず、サンフランシスコや台湾などでいけばなパフォーマンスを行い、海外展覧会にも参加。

「東洋英和とアート」

東洋英和で、自ら楽しんで共同制作や作業をしたことなどが、自主性、創造性を培いアーティスト活動の原動力になっています。

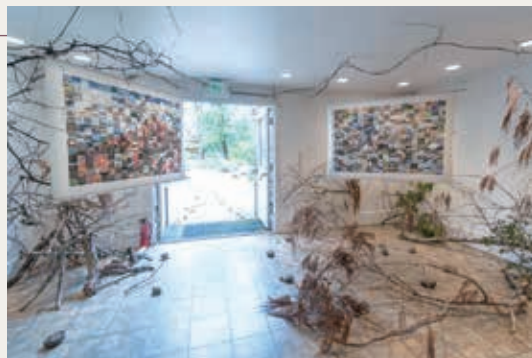


横浜名流華道展
出品作品(2025)
ケヤキ樹皮、ひまわり、
サンキライ

Check
Homepage



サンフランシスコ、Marin Art & Garden Centerでの、写真家との展示会にて。インスタレーション。(現地ガーデンでいただいた伐採木)(2024)



「行く川の流れば絶えずしてしかも元の水にあらずや」(2025)
ホテル装花



Dual Letter《Nightingale》(2006)
シルクスクリーン、紙



Dual Letter《主婦 / Housewife》(1999)
アクリル絵の具、キャンパス

文字美術作家

遠山 由美さん

Profile 小学部から高等部まで東洋英和で学ぶ。西洋のカリグラフィと東洋の書を土台に、ことばを書くことを通した表現を行う。作品集『両面文字 / Dual Letter』などを出版。ヒルサイドライブラリーなどで作品常設。個展など展示多数。

| 東洋英和とアート |

図工で、はっきり塗り分けたお面が多い中、混色して抽象的になった私の手元を見て先生は「これ、とってもいい。すごいいいね!」と褒めてくださいました。今も支えになっている言葉の一つです。



Check
Homepage



コンセプトアーティスト

東條 あずささん

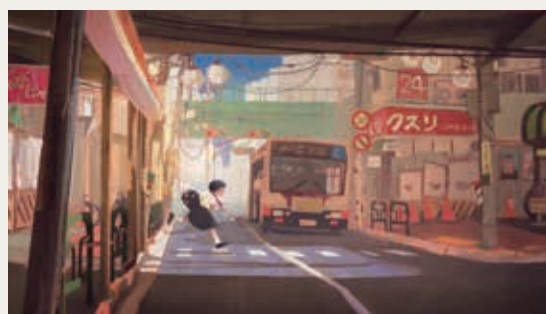
Profile 小学部から高等部まで東洋英和で学ぶ。カナダに留学して3D全般を学び、カナダのVFX会社で1年間3Dアニメーターとして働いた後、ルーカスフィルム (ILM) で働き、独立。参加作品は『Stranger Things2』『Aladdin(実写)』『Star Wars IX』など多数。

| 東洋英和とアート |

美術の授業は自由で一番好きでした。クラスの垂れ幕作りや楓祭のポスター作りがとても楽しくて、思い出に残っています。



Check
Homepage



「遅刻しそうな思い出」(2022) デジタル



「姉と一緒に帰り道」(2022) デジタル



「染め付け大根」(2025)
染め付けの大根と、地紋様は墨弾きという技法を使っています。

陶芸作家

海老澤 希衣子さん

Profile 幼稚園より東洋英和で学び、1993年に東洋英和女学院大学を卒業。鍋島焼の阪井茂治氏に師事し、2010年に鶯窯を建てて作陶を開始。桃林堂画廊や代官山ギャラリーにて作陶展を開催。

| 東洋英和とアート |

学校生活の中で「用の美」を自然に身につけました。ヴォーリス建築の美しい意匠が施された校舎で過ごした日々が仕事に生きています。



Check
Instagram



Check
Facebook



絵付けの途中



「色絵紅葉」(2025)
本焼きの後に色をつけて再度焼いた物です。



マンガ家・アーティスト

近藤 聡乃さん

Profile 中学部から高等部まで東洋英和で学ぶ。アニメーション、ドローイング、エッセイなど多岐にわたる作品を国内外で発表。アニメーション「てんと虫のおとむらい」ダイジェスト版は「YouTube Play. A Biennial of Creative Video」(グッゲンハイムミュージアム、ニューヨーク)においてTop25に選出。

| 東洋英和とアート |

六本木駅のそばに青山ブックセンターがありました。毎日のように立ち寄って、新しい文化に触れることができたのは良い経験でした。



Check
Homepage

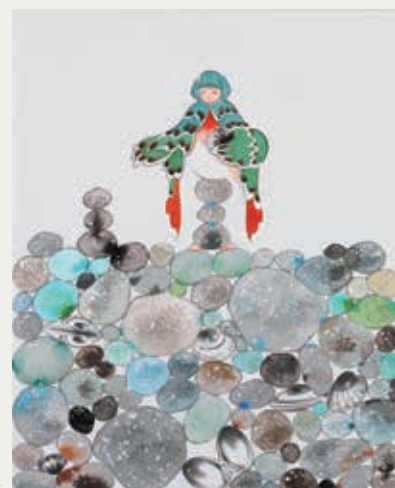


「KiyaKiya」(2010-2011) アニメーション
手描きのドローイングによるアニメーションです。
Courtesy of the artist and Mizuma Art Gallery



「ニューヨークで考え中」
第一巻(亜紀書房)
(発行日: 2015年4月24日)

「呼ばれたことのない名前」
ドローイング、鳥頭巾と石 (2022)
紙に鉛筆、アクリルインク
Courtesy of the artist and Mizuma Art Gallery



From the Garden of Kaede

楓の園から[学院NEWS]



中学部3年
『自分のフィギュア』



高等部1年『静物油彩』

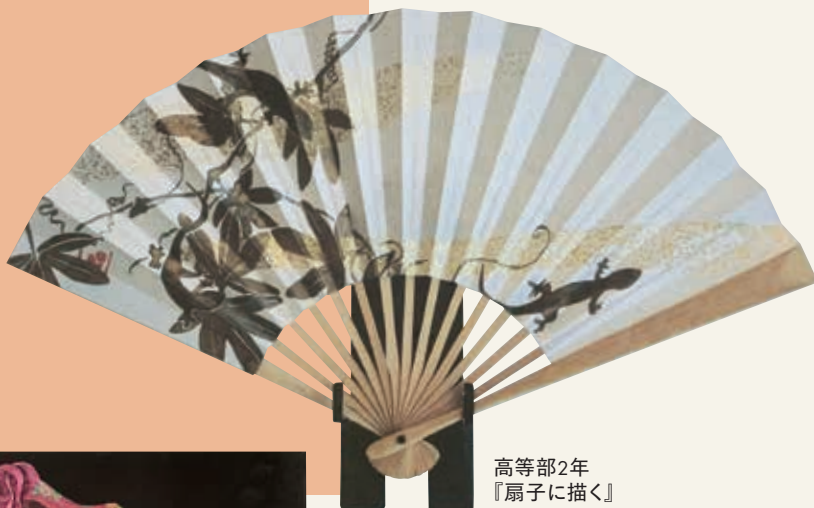


高等部1年『静物油彩』

東洋英和のART 生徒作品展覧会



中学部2年『ボックスアート』



高等部2年
『扇子に描く』



高等部1年『木彫硯箱』



中学部1年『靴のスクラッチ』



校内美術展の
展示風景

楓祭の中で見つけたアート

広報委員 植田亜里沙(図書科)

第57回楓祭のテーマは「Jewel」。英和生一人ひとりの個性が輝くように、そして互いに切磋琢磨し合い輝きが増すようにという思いが込められています。そんな楓祭の中で輝きを放っていたアートの一部を紹介いたします。

まずは、正門と一体化した「アーチ」です。楓祭実行委員会のアーチセクションが制作を担当しました。登校した英和生も、ご来場の方々も、通り抜けると「楓祭が始まる!」という高揚感でいっぱいになる名物アートです。

■実行委員会アーチチーフからのコメント

今年度は楓祭のテーマであるJewel、つまり宝石を多くちりばめたデザインにしました。デザインの一部であるステンドグラスやお花、スイーツの宝石には英和生一人ひとりの輝きが際限なく詰まっています!



正門に設置されたアーチ

校舎全体の装飾を担当するのは実行委員会の会場セクションです。一体感と機能性を大切に、校内外の細部まで気が配られていました。今年は階段や廊下、窓などに加え、体育館の壁面に幕を設置していました。

■実行委員会会場チーフからのコメント

受付と共にお客様を迎える幕なので、華やかな色使いでワクワクするようなデザインにしました。テーマに合わせ丘の花や木を宝石にし、コスモスで季節感を出しています。7m×4mと大きく、6枚の布で構成されるので、離れて見たときの美しさや見栄えも意識しながら制作しました。



体育館の壁面に設置した垂れ幕

開催中手放すことのできないプログラム冊子の表紙・裏表紙のイラストは、全校生徒からの公募と投票で決定しています。今年は全13作の中から選ばれた、繊細な色合いと質感の光るこちらの作品でした。

■楓祭プログラム表紙・裏表紙イラスト 作者からのコメント

最初は宝石の光を強調するために暗い背景にしようと思いましたが、楓祭という行事の明るさと秋という季節を考えて爽やかな印象を与えられるような青にこだわりました。



楓祭プログラム表紙・裏表紙イラスト

各団体の教室と展示作品にもアートが溢れています。その中の一つ、美術部の展示会場には、ひととき目を引く大きな絵画がありました。部員全員で力を合わせた共同制作作品です。個人作品と合わせ、部員の賜物が遺憾なく発揮された空間となっていました。

■美術部部長からのコメント

特にこだわった点は主役となる鹿の形や色合いです。一見黒一色に見える鹿の中の微妙な色合いに特に力を注ぎました。



美術部の共同制作作品

今年も大盛況の2日間となりました。ご来場いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



「偶然性」を味方に

図工科担当 関 隆弘

低学年の子どもたちは、絵画制作に対して前向きな姿勢の子どもたちがほとんどです。図工の時間だけでなく、休み時間などにも楽しそうに絵を描く姿をよく見かけます。しかし、中学年から高学年になると「上手に描けない」など、自分自身の客観的判断から絵画制作に抵抗を感じ始める子どもたちが出てきます。発達段階に伴い、客観的な判断ができることは決して悪いことではありませんが、一概に「上手」「下手」といったことで絵画制作を捉えるのではなく、本質的にもっている純粋に描くことの楽しさを忘れないでほしいと思っています。絵画制作に関わらず、造形活動全般に対して、観念的になり、自身の客観的判断であきらめがちな子どもが、いつもよりほんの少しでも、純粋な気持ちで目の前に現れる線や形、色と向き合ってほしいと考えています。私自身の経験として、絵画制作において、絵の具がにじんだり、色が混ざってしまったりと、思った感じと違う雰囲気になってしまうことがあります。けれども、その「思った感じと違う」が、新たな展開をもたらす大切なきっかけになることがあります。私は、こうした「偶然性」を「マイナスなこと」ではなく「プラスなこと」として前向きに受けとめれば、客観的判断であきらめがちな子どもたちも、もっと絵画制作を楽しめるのではないかと考えました。子どもたちは、制作の中で、思い浮かんだイメージを一生懸命に表現しようとします。しかし、実際に手を動かしてみると、思っていたような色や線、形にはならない。そんな時に「ダメだ」と思うのではなく、「あれ、こんな形になっちゃったけど、なんかいいな!」、「このにじんだ感じがおもしろい!」などと思うことができると、「偶然性」の中に、新たな形や色を見つけ、それを次の表現へとつなげていくことができます。



網とブラシを使って「スパッタリング」

また、「偶然性」を受け入れていくことで、「まあなんとかなる!」、「うまくいなくても大丈夫!」という安心感にもつながります。図工の時間は、ひとつの正解を求める場ではありません。思いがけないことが起きても、それをどう生かすかを考えることが大切です。「上手にできなかった」ではなく「なんかおもしろいことが起きた!」と感じられる「失敗できる」環境づくりが、子どもたちの意欲を高め、表現への挑戦を支えます。「偶然性」に意味や物語を見いだすことは、子どもの想像力を育み、表現の主体性を支える大切なプロセスです。

「偶然性」は、子どもたちの想像力を引き出すための大切な要素だと思います。自分の思いと「偶然性」から生まれた線や形、色が出会うとき、そこには新しい発見と喜びが生まれます。図工の授業では、計画どおりに描くことだけではなく、そのプロセスで起こる思いがけない変化を楽しめるような時間や気持ちを大切にしたいと思います。「偶然性」を味方にして描いたり、つくったりすることで、子どもたちは自分なりの表現を見つけ、それらを通していろいろな世界と出会っていくのです。



スパッタリング



吹き飛ばし



ストローを使って「吹き飛ばし」

どろぼうのあしあと

保育主任 渡辺 みな子



「いろみずのグラデーション」(年長組) 金色に輝くいちじくの葉、百日紅のかわいらしい葉、ツヤツヤとした柿の葉、大きなびわの葉、幼稚園の庭は神さまが私たちに見せてくださる美しいものに溢れています。子どもたちはその中で、砂のお団子やケーキ、すり鉢で花びらや葉っぱを擦って色水などを作り、惜しみなくご馳走してくれます。

ある日裏庭に遊びにいくと、1人の子どもが「どろぼうがいるんだよ!」と張り切った様子で教えてくれました。どうやら友だちを勝手に泥棒に見立て、追いかけて遊んでいたようです。知らない間に泥棒にされてしまった子どもが困っていたので、少し方向転換をしてみる事にしました。その場でしゃがみこみ、落ちていた石を拾って地面に足の形を描き「あ!どろぼうのあしあとがある!」と言うと、「本当だ」と不思議そうに足跡を見ています。早速その「どろぼうのあしあと」に自分の足を合わせてみます。

しゃがんで何かをしていると子どもたちが集まってくるから不思議です。足跡は大きく、どの子どもの足も、教師の足も小さすぎます。「先生!こっちにもどろぼうのあしあとがあるよ!」と呼ばれ行ってみると、そこには巨大な足跡が描かれていました。巻き尺を持ってきて測ってみると、97cm!大きな楕円の先に親指、人差し指……と5つの丸が付いた立派な足跡でした。そのうち足跡を描くのが面白くなり裏庭に足跡が増えていった頃、残念ながら片付けの時間になってしまいました。

子どもはその時に出会ったもので思い思いにさまざまなものを作り上げます。一瞬で生まれ一瞬でなくなる尊いアート作品です。



「大きなあしあと」(年少組)

誰も見たことのない生き物

主任、年少組・満三歳児担任 片岡 朝子

かえで幼稚園では保育の中のあちらこちらでさまざまな創作が生まれています。描くこと、糊やはさみを使って作ること、木工活動などです。年長組の子どもたちは毎年、秋の1日に永野むつみさんによるアートのワークショップを体験します。永野さんは劇団ひばりあむの主宰であり、子どもたちに豊かな人形劇を届けてくださる方です。この日永野さんは「見たことのない生き物」をテーマに、思い思いに自分の生き物を創りだせるよう語りかけられました。子どもたちはいつも使っている素材や道具も使いますが、これまで使ったことのない幅広い素材や道具も使って、それぞれに見たことのない生き物を創り出します。子どもたちは手を動かしながら、楽しそうに



こんな生き物ができたよ

その生き物の物語を語ります。「この生き物はね、ゴミを食べてくれるの」「この長いのはね、しっぽじゃなくて歩いた跡がついてるってことなんだよ」「この



永野むつみ先生によるワークショップ

生き物はね、時々くさーい匂いもだすよ」「これはね、朝ご飯になんでも好きな物を出してくれる生き物なんだ」と物語は続いていきます。ワークショップの終わりにはでき上がった生き物に名前をつけて、その生き物の得意なことや、好きな食べ物等を分かち合いました。ワークショップが終わったあとも「見たことのない生き物」との遊びは続き、人形劇をしたり、新たに生き物の仲間を創ったりしています。日常の保育から創りだされるアートは、遊びの中でなお育ち、子どもたちの豊かな体験につながっていきます。

中高部



東洋英和幼稚園／小学部



三谷 勲(元中高部美術科教諭、在職1956～1969年)

左【中高部正門】 右【東洋英和幼稚園／小学部 ロータリー】

三谷先生の作品は、見る人が感じたまま自由に名前を付けてくだされば良いという主義なので名前がありませんが、中高部の石像(左)は、生徒が「友像君」と愛称を付けました。

東洋英和を彩る美

— 学び舎に受け継がれるARTたち —

中高部



「M.J.カートメル宣教師」

森田 のぞみ(元中高部美術科教諭等、在職1958～1991年)

【中高部 正面玄関】

マーサ・J・カートメル先生は、1884年に東洋英和女学校を創設されました。この絵は、小学部の図工・中高部の美術を担当されていた森田のぞみ先生が描いたものです。

小学部



小林 白藍(書家、小林栄美子、1977年高等部卒)

【小学部昇降口】

この言葉は、学院標語の「敬神奉仕」を小学生にもわかる言葉で表現したものです。1996年から13年間小学部長を務めた寺澤東彦先生の依頼で、幼稚園から東洋英和で学んだ小林さんが揮毫しました。



初山 滋（日本における童画・版画の先駆者）

【東洋英和幼稚園 玄関】

1962年、新園舎落成を記念して、初山画伯がお描きになった作品です。画伯ご自身が幼稚園をご覧になりながら、その場でお描きくださいました。タイトル不詳。

東洋英和幼稚園



本部・大学院棟



「イタリア・アッシジの丘 サンフラン・チェスコ寺院を望む」

平山 郁夫（シルクロードを描き続けた日本画家）

【本部・大学院棟 エントランスホール】

学院創立120周年の記念として平山郁夫画伯からご寄贈いただきました。平山先生が、イタリアのアッシジと聖フランチェスコの「平和の祈り」に熱い思いを込めて描かれたものです。

大学



「KIORA」

Honoka（2012年大学卒）

【大学 5号館エントランスホール】

2010年7月、国際社会学部3年生だったHonokaさんより二科展入選作品「KIORA」が大学に寄贈されました。作品名「KIORA」は「清らか」から連想して名付けられ、2000年代後半当時の混沌とした社会情勢の中、人々の心が「清らか」であるようにとの願いが込められた作品です。

かえで幼稚園



「主イエスの祝福を受ける子供たち」

田中 忠雄（日本のキリスト教美術の父）

【大学付属かえで幼稚園 ホール】

1993・94・95年度の卒園生からの卒業記念品としてかえで幼稚園に贈られました。子どもたちのそばにいつも飾られています。

大学図書館貴重書庫について

貴重書庫全景



現在の大学図書館は、大学開学10周年を記念して建てられたもので、2024年に開館25周年を迎えました。その図書館の

奥の方、普段利用者の方々の目に触れることのない事務エリアに貴重書庫があります。広さは29平米ほど、内壁には耐湿に優れた木材が使用されており、資料の保存に最適とされている温度(18~22℃)・湿度(40~60%)を保つよう、365日管理されています。

貴重書庫に保管される資料は、当館の「貴重書基準」(2011年図書館委員会制定)に該当するもので、貴重書と準貴重書に分けられます。貴重書の条件は刊行年で、洋書が1850年以前、和書が1889年以前に刊行された資料です。貴重書には該当しないものの、資料としての価値が高いと判断されるものや、学院に関係があり、特別の保存が必要と判断されるものなどは、準貴重書として、貴重書庫で大切に保管されています。

現在、貴重書庫にある貴重書は23冊、準貴重書は1,311冊です。今回はその中から4点をご紹介します。

【貴重書】

Prince Arthur : an heroick poem : in ten books
(by Richard Blackmore and fellow of the College of Physicians in London ; Printed for Awnsham and John Churchill at the black Swan in Pater-Noster-Row, 1696)

約330年前にイギリスで刊行された、当館蔵書の中で一番古い図書です(図書の形をしていないものではなく、さらに古い資料があります)。内容は、アーサー王(5~6世紀にかけてのイギリスの伝説的人物)の英雄詩で、著者はイギリス人の医師であり作家でもあったリチャード・ブラックモア卿です。

この本は、短期大学英文科の会津常治先生から1956年にご恵贈いただいたことが、図書原簿に明記されています。本体、特に革製カバーの酸化が進んでおり、中性紙箱に保管されていますが、本文はきれいなままで全文を確認することができます。



"Prince Arthur"
1696年刊行
約330年前にイギリスで
刊行された、当館蔵書
の中で一番古い図書

大学図書館事務長 青山 史絵

【準貴重書】

Das Buch von Lindisfarne
(複製. Luzern : Faksimile-Verlag, c2002)

オリジナルは、イギリス中部ノーサンバーランド東岸、リンディスファーン島にあった修道院で、7~8世紀ごろに製作されたラテン語の福音書装飾写本です。上質なヴェラム(羊皮紙)に美しい文字が筆写されており、宝石や貴金属で精妙な装飾を施された稀覯本は、ヴァイキングの略奪危機や、権力者による没収などの波瀾にたびたび遭遇しましたが、17世紀に装丁直しが行われた後はそのままの形を維持し、大英図書館に所蔵されています。



"Das Buch von Lindisfarne"
Facsimile ed.

当館所蔵は、2002年に刊行されたファクシミリ版ですが、表紙は金属装飾と貴石がちりばめられており、本文の装飾文字やカーペットページと呼ばれる装飾ページの美しさも忠実に再現された、芸術的価値が高い資料です。

Anne of Green Gables
(by L. M. Montgomery ; illustrated by M. A. and W. A. J. Claus. L. C. Page, 1908)とルーシー・モード・モンゴメリ著 ; 村岡花子訳『赤毛のアン』(三笠書房, 1952.5)

カナダの女性作家、ルーシー・モード・モンゴメリが1908年に刊行した初版本と、東洋英和の卒業生である村岡花子さんが翻訳し、日本で初めて『赤毛のアン』として1952年に三笠書房から刊行した初版本を所蔵しています。どちらも国内所蔵館は少なく、英和の宝としても大切に保管する必要がある本です。



"Anne of Green Gables"
『赤毛のアン』の原書
1908年初版本



『赤毛のアン』
村岡花子訳 三笠書房
1952年初版本

【参考文献】

- ・「アーサー-おう【アーサー王】」, デジタル大辞泉, JapanKnowledge, <https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2001027292700>, (参照 2025-09-11)
- ・Gregori, F. (2004). Blackmore, Sir Richard (1654-1729), physician and writer. Oxford University Press. <https://doi.org/10.1093/ref:odnb/2528> (参照 2025-09-11)
- ・「リンディスファーンの書」, 世界大百科事典, JapanKnowledge, <https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=102008137300>, (参照 2025-09-11)

※貴重書庫の閲覧、資料の利用希望は、個別に対応しておりますので図書館カウンターでお申し出ください。

創立 140 周年記念募金報告

—2025年3月末日集計結果—

47,944,660円(1,270件)

目標金額 25,000,000円

2024年に創立140周年を迎えた東洋英和女学院の「創立140周年記念募金」に温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

ご支援いただきましたご寄付につきましては、当初の使途・目的に沿い学院各部から希望が寄せられていた設備・備品の購入や修繕に充てられておりますので、その一部をご紹介します。

皆さまからのあたたかいご支援を、更なる教育の充実と学院の発展のために生かしてまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

東洋英和幼稚園



大型積み木セット



大型組み木セット



講演台

大学付属かえで幼稚園



鉄棒



インディアンタワー



かえでタワー(修繕)



ジャングルジム(修繕)

野尻
キャンプサイト



キャビン内エアコン

大学



電子ピアノ

2025年12月末時点で、整備・購入が終了しているものを紹介しています。

新しい翻訳『聖書協会共同訳聖書』のご紹介

大学 国際社会学部 国際社会学科 准教授 堀川 敏寛

現在、学院宗教教育委員会では、新しい聖書翻訳について話し合いが続けられています。

神学者ラインホルド・ニーバーは、「変えられないものを受け入れる心の静けさと、変えるべきものを変える勇気、そしてその違いを見極める知恵をお与えください」と祈りました。委員会でも、この祈りを思い起こしながら、丁寧に意見を交わしています。今回は、すでに大学の授業で学生たちが学んでいる、新しい翻訳をご紹介します。



東洋英和オリジナルカバーの『聖書協会共同訳聖書』を持つ武藤美来さん(国際社会学科1年)



聖書協会共同訳聖書

神さまの言葉を受け継いでいくことを目指して

御言葉の新しい息吹に触れる

日本語訳聖書は、『口語訳』(1954年)、『新共同訳』(1987年)と、これまでおよそ30年ごとに翻訳が改められてきましたが、このたび学院でも使用する翻訳聖書を『聖書協会共同訳』に切り替えるかが話題となっています。多くの翻訳者たちが、時代に即しながらも、神さまの言葉を正確に伝えるために力を尽くしてきたことを思うと、深い敬意を覚えます。

2018年に刊行された『聖書協会共同訳』は、スコプス理論という翻訳方針に基づいています。これは原文にどこまでも忠実であることよりも、教派を超えて礼拝で読まれ、共に聴かれることを目的(スコプス)とする考え方です。新共同訳聖書が刊行されてから40年近くが経ち、私たちはその訳語に慣れ親しんでいます。それゆえ新しい訳に変わることに戸惑いや違和感を覚える方もおられるかもしれません。しかし、神さまの言葉は一つの言語に閉じ込められたものではありません。むしろ翻訳を通して、御言葉は常に新しい形で、私たちの言葉に生き続けているのです。旧約聖書をドイツ語に訳した哲学者マルティン・ブーバー(1878-1965)は、聖書をなじみのないものとして読むことを薦めました。あまりにも慣れず

ぎた言葉によって、聖書本来の響きが薄れてしまうことを恐れたのです。ですので新しい翻訳に出会うことは、御言葉の新しい息吹に触れることでもあります。

変わらない真理を守りながら

カトリックでは、長らくラテン語訳聖書を共通の標準としてきましたが、プロテスタントは多様な翻訳を受け入れ、時代ごとに新しい表現で御言葉を伝えてきました。絶対的に「正しい訳」はなく、よりよく伝えるために常に改訂し続けることこそ、プロテスタントの信仰の姿勢なのです。本学院も、メソジストを起源とするプロテスタントの学校として、聖書に基づく信仰と教育を大切にしてきました。聖書を開き、神さまの言葉に耳を傾けることは、信仰だけでなく、学院の教育理念や生徒の人生観の中心でもあります。だからこそ、聖書の言葉が誤って伝えられないように、時代ごとに訳語を見直すことが欠かせないのです。これは、変化する日本語に対応しながらも、決して変えてはならない真理を守り抜く営みでもあります。

たとえば学院標語「敬神奉仕」の「敬神」の基となる聖書箇所にある「精神を尽くし」という言葉は、『聖書協会共同訳』(以下、新訳)では「魂を尽くし」と訳されています。

[聖書翻訳の推移]

	口語訳聖書 (1954年)	→	新共同訳聖書 (1987年)	→	聖書協会共同訳聖書 (2018年)
【新約聖書】 マルコによる福音書 12章30節	心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ	→	心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい	→	心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい
【旧約聖書】 詩編23編1～2節	主はわたしの牧者であって、わたしには足りないことがない。 主はわたしを緑の牧場に伏させ、 いこいのみぎわ に伴われる。	→	主は羊飼ひ、わたしには何も欠けることがない。 主はわたしを青草の原に休ませ 憩い の水のほとりに伴ひ	→	主は私の羊飼ひ。私は足りないことがない。 主は私を緑の野に伏させ 憩い の みぎわ に伴われる。

この箇所は、主イエスが律法のすべてを「神を愛し、隣人を愛する」という二つの戒めに要約した場面に関係し、旧約聖書の申命記とレビ記を引用したものです。『新共同訳』では旧約聖書で「魂を尽くし」、新約聖書で「精神を尽くし」と訳され表現が統一されていませんでしたが、新訳では表現が整理され、申命記6章4節で「魂」と訳されていた語がマルコによる福音書でも「魂」と訳されるなど、より一貫性のある形になっています。新訳で「魂」が採用されたのは、この語に「命」という意味が含まれているためです。神を敬うという行為が単なる精神的営みではなく命を懸けてなされるものであることを、明確に示している点で重要です。

また「正義と公正(裁き)」を意味する言葉が、『新共同訳』では「恵みの業」とされていましたが、新訳では原語の意味に戻されています。他には上記チャートのように詩編23編2節では、『口語訳』で親しまれた「憩いみぎわの汀」という美しい表現が復活しました。

このように、聖書の切り替えとは、聖書そのものが変わるのではなく、最も適切な日本語訳になるということです。聖書の中身——私たちが受けとる御言葉はこれまで、これからも変わりません。翻訳とは単なる言い換えではなく、神さまの言葉を今を生きる私たちの言葉として受け取る営みです。新しい聖書に出会うことは、変わらない御言葉が新しい時代に語りかける瞬間に立ち会うことであり、私たちはその恵みを共に味わいたいと思います。



『聖書協会共同訳聖書』について学ぶ大学の講義

キリスト教画家 松岡裕子

絵画を通して神の愛を語る

「青の使い方のうまい人だ。それは限りなく広がる大空であるが、ただの空間ではない。神の居ますところ—そんな祈りの気持ちで松岡裕子さんはキャンバスに向かっているのだと思う。」このように評した田中忠雄画伯(日本を代表する宗教画家)の薦めで松岡裕子先生はキリスト教絵画を描くようになりました。



「小さい子どもが眠るとき、かわいい星は目をさます」
油彩【中高部正面玄関】

敗戦の1945年、6歳の時のクリスマスは上海の教会で迎えました。初めてクリスマス・ページェントに加えてもらった私は、星の役でした。両手をキラキラとまわして聖家族役の子どもたちの後ろでこの讃美歌を合唱しました。思い出深い大好きなこの歌を、聖母が幼子イエスに歌う子守唄にしてみました。

『松岡裕子 26枚の絵』発行：グリーン・メドー(2021年4月20日)より

Profile_Yuko Matsuoka

東洋英和・桜プロジェクト委員、
同福島の子ども支援プロジェクト委員



1938年 小樽市生まれ
1957年～東洋英和女学院高等部、短大英文科1年修了後
オハイオ州The College of Wooster、
ミシガン州立大学へ留学
数々の個展を通してキリスト教絵画を発表
1992～1998年 アジアキリスト教美術協会会長
2025年 長年キリスト教文化の振興、発展のために
貢献したことが認められ、
第56回キリスト教功労者に顕彰された

教員紹介

音楽ワークショップで
音楽の楽しさを伝える



Nanae Koizuka

大学

人間科学部 保育子ども学科

小井塚 ななえ 講師

九州大学21世紀プログラム卒業。
東京藝術大学大学院音楽研究科
修士課程、博士課程を修了。博士
(学術)。大学在学中に、演奏家
が聴き手の元へ出向き音楽を共有する「アウトリーチ活動」と出会い、ライフワークとして研究。2017年東洋英和女学院大学に着任。現在は子どもたちとの音楽ワークショップを中心に、研究活動・音楽活動を展開。



4歳の息子が大好きな恐竜、昆虫に夢中になり、最新の研究動向をチェックしています。好きな恐竜は、パキケファロサウルス。

学生からのメッセージ



人間科学部保育子ども学科 3年
総田 真子

小井塚先生は、いつもどんなことにも全力で楽しんで取り組まれています。先生の授業や音楽活動を見ていると、私たちも思わず「早くやりたい!やってみよう!」という気持ちが自然と湧き上がってきます。先生は常に私たちに寄り添ってくださる温かい方で、私にとって尊敬する大切な存在です。

—研究内容と大学での教育について教えてください。

専門は音楽教育学で、子どもの育ちと音楽の関わりについて研究しています。特に「音楽ワークショップ」をフィールドにしています。どんな活動をするかある程度プログラムを組んで臨むのですが、子どもから出たアイデアを即興で取り入れるなど、人との間で緩やかに変化して音楽が作られることに興味があります。そこでは演奏家の出す音やファシリテーターの声掛けなどの一つひとつによって空間が変化します。行動観察や録画して研究を進めています。

—音楽表現を専門にされたきっかけは何だったのでしょうか?

幼少期からピアノを習い、高校時代に音大か総合大学かで進路を迷いましたが、音楽以外のことも学びたくなり、自分のカリキュラムを自由に作れるユニークな取り組みをしている大学に進学しました。大学では建築史学が専門の先生と出会い、「公共性」という言葉を知り、「皆と共に」「人と音楽を創る」ことに興味がわき、公共ホールの音楽プログラムを卒業テーマにしました。当時、公共ホールの文化事業として注目されていたのが、演奏家や企画側から音楽を届けに行く「アウトリーチ活動」で、それが今の子どもたちとの音楽ワークショップの研究につながっています。

—東洋英和ではどんな教育をしていますか?

保育における「表現」関連の授業を通して、音楽の楽しさを伝えています。学生自身が「音楽は楽しい」ということを思い出すための仕掛けとして、音楽ワークショップを学生にも経験してもらっています。「フィールドワーク」の授業では、学生が企画したものを幼稚園などで実践します。実習と異なるのは、学生主導で新しいことに挑戦できることです。想定外の出来事に対峙し成長する学生の姿に力をもらっています。ワークショップの様子を見て、地域の幼稚園や保育所から公演依頼を受けたこともあり、学生も私も励みになっています。

—東洋英和の研究環境をどう思いますか?

キャンパスの竹を切って楽器を作るなど自然豊かな環境を享受しています。また、キリスト教の学校なので、礼拝や各種行事で音楽が大切にされており、学生も活躍しています。音楽への理解があるのもうれしいですね。

—英和生にメッセージを!

人と出会い、何かをし、外に目を向け、「どうしてもこれを知りたい」という何かに出会ってほしいですね。その時、「自分はこうだから」とチャレンジする前に放棄せず、とりあえず一回、トライすると新しい自分に出会えますよ。

美術が育てる、
自分らしく生きる力



Naomi Yamashita

中高部

美術科 山下 直美 教諭

東京藝術大学美術学部日本画専攻卒業。同大学大学院美術研究科修了。東京大学史料編纂所にて古地図アーカイブ編纂事業、法隆寺国宝百済観音天蓋彩色など古い日本美術に関する仕事に従事。2005年東洋英和中部美術科に着任。美術部顧問、中学部と高等部の美術選択クラスを担当。



校内にはチャペルなど描いてみたい風景がたくさんありますので折に触れてスケッチしています。

生徒からのメッセージ



高等部 3年
後列左から
吉田 風那、北村 美幸
柴田 凜緒、杉野 那歩
前列左から
信夫 咲喜子、徳永 小怜
前田 波音

山下先生には「美術概論と表現」の他高3の選択授業でお世話になっています。先生は技術面に加え、美術史の学習やアイデアを出す過程など、さまざまな場面で指導をさせていただきます。また、私たちが学校外で制作した作品も一人ひとり丁寧に講評してくださったり、放課後にデッサンの練習ができる環境を設けてくださったりと、授業時間以外にも多くの学びの機会と指導をいただきました。寛大で真摯な態度で個性豊かな私たちをまとめてくださる先生は私たちの憧れです。

—美術の世界を目指したきっかけは？

学校の美術の授業が好きで、自分で絵やイラストを描くことも大好きでした。美術の道に進みたいとはっきり自覚したのは、高校生の時に奥村土牛の「鳴門」という日本画を見たときです。日本美術独特の色彩の複雑さや渋み、どうやって描いているのかわからない筆使いや大胆な構成に魅了されました。それまでは油絵を勉強していてそれでも大変楽しかったのですが、その時の新鮮な感動が忘れられず、それから思い切って方向転換し日本画で大学を目指すことになりました。

—教師になったのはなぜですか？

大学で教職課程を取り、自分の母校で教育実習を行いました。授業での生徒との関わりがとても楽しく、また実習担当の美術の先生がとても良い先生で思い出に残っています。大学院を卒業後、美術予備校や専門学校の講師をする機会があり「教えることの喜び」を再確認したことも教師を目指すきっかけになりました。中学や高校時代の美術の先生も尊敬できる先生方で心に残るご指導をいただきました。それらがいつの間にか人生のロールモデルになっていたのだと思います。今の同僚の美術科の先生方も助手の先生も含め大変誠実で優秀な先生方で、良い出会いに導かれてきたと思います。

—授業で心掛けていることは？

中高一貫教育の特性を活かし、美大受験でも通用する基礎を習得できるよう体系的なカリキュラムを組んでいます。中学では美術が必修、高校では選択制のため、授業の設計や教師の関わり方に違いはあるものの、どの学年でも個性を尊重し、生徒と共に表現を探究する姿勢を大切にしてきました。中1では導入の学習として「自分の名前をデザインする」という課題をしています。生徒にとって身近な名前という題材を通して、文字(書体)を正しく写すデッサン、発想、色彩表現、絵具の扱い方までを学びます。一回の制作でより多くの学びができる課題作りと指導を心がけています。高校の選択授業では美術のより専門的な技法を生徒と共に学べることに特別な楽しみがありますが、美術系大学への進学指導では責任も強く感じます。

—英和生にメッセージを！

美術の学びは絵を描くことだけでなく、暮らしの中で役立つ美的感覚や創造性を養う側面もあります。進路に関わらず、芸術に触れること、理解できるようになることで心が豊かになり、人生の彩りが増すと信じています。これからも、生徒が自由にのびのびと表現できる場を守りながら一人ひとりの声や感性に寄り添っていきたいです。

おかみ 女将として歩む日々

力士であった親方との出会いから結婚に至るまで、私の気持ちにまったく迷いはありませんでした。しかし「春日野部屋の女将」となってからは、生活は大きく変わりました。娘の誕生という大きな喜び、部屋の力士の本場所での勝ち越しや優勝や大関昇進など皆で多くの喜びを分かち合う経験を重ねてきました。力士だけでなく周囲から「女将さん」や「春日野さん」と声を掛けられることにも次第に慣れ、今ではそれが日常の一部となっています。

力士たちは大学の相撲部出身者や、中学卒業後すぐに入門する子などさまざまです。共通しているのは「真剣に強くなりたい」という思いです。そんな中で、特に印象に残っている出来事があります。実家に帰省した力士のお母様から電話をいただき、「うちの子が自ら率先して家事を手伝ってくれるようになりました」と涙ながらにお礼を言われたのです。力士として送る生活の中で、人として当たり前のできるようになった息子さんの姿に喜びを感じてくださったエピソードです。

自らの意思で入門した子でも、寂しさからホームシックにかかったり、辛かったことも沢山あったと思います。しかしそれを乗り越え、年月を重ねて頼りになる兄弟子に成長した姿は誇らしく見えます。そして、その兄弟子が同じ経験をしている新弟子たちに声をかけることで、良い部屋の雰囲気築いていると実感しています。

部屋では交代でちゃんこ番や掃除番を務め生活しています。失敗を注意されながらも、少しずつ自信をつ



創立100年を超える歴史と伝統のある春日野部屋の力士たち



けていきます。番付による決まりもあります。三段目に昇進すると下駄から雪駄に変わります。幕下になると博多帯が締められます。関取になればお給料がもらえ、大部屋から個室に移り、待遇も大きく変わります。皆がそこを目指しています。

私が女将になった時、親方から言われたことが二つあります。一つ目は「力士たちを我が子のように、時には我が子以上に接してほしい」、二つ目は「力士たちを呼び捨てではなく、『君』や『さん』を付けて呼んでほしい」という事でした。それ以来、この言葉を胸に日々を過ごしています。

私たち家族の春日野部屋での生活が始まったのは、息子が小学3年生の時でした。忙しくなるにつれ「ちょっと待ってね」と言うことが増えていました。ある日、息子がお風呂場で一人で泣いているのを見つけ、相当我慢させていたのだと反省し、なぜ一人にできてしまっていたのかを丁寧に説明し協力を求めました。息子は、「わかったよ」と納得してくれ、それ以来今でもいろいろと助けてもらっています。

今まで力士たちの成長を見守ってきたつもりですが、振り返ってみれば、私自身も共に成長させてもらったのだと感じます。

ある時親方がこう言ってくれました。

「英和で育った君だから、神様の教えに触れてきた君だから、今の君があるんだね」

この言葉は、今も私の心に温かく残っています。

Profile かせ だ 総田(前川) 紀子 のり こ

1988年高等部卒業。東洋英和女学院短期大学に入学し、英文科および保育科を卒業。枝光会附属幼稚園に就職。1993年栃乃和歌関(最高位関脇、現春日野親方)と結婚。2003年から女将として春日野部屋を支える多忙な日々を過ごす。



ブックカフェを地域コミュニティの拠点に

ブックカフェ ハレキタザワ

北澤 見和(1979年高等部卒)

住所 東京都足立区六月 2-33-3

TEL 03-3859-1141

Instagram bookcafehalekitazawa



Check! 創業70周年を迎える不動産会社を営んでおりますが、コロナの時期に地域の憩いの場にしたいと弊社所有の一軒家を開放して読書会やコンサート、英会話サロンなどさまざまな形で利用してもらっています。



英和の教えを胸に日々診療

麻布十番眼科

田村 園子(旧姓田波、1991年高等部卒)

住所 港区麻布十番 2-18-8 アサミビル 4 F

TEL 03-5442-3543

URL <https://azabujuban-eye.main.jp/>

Check! 東洋英和で学んだ心を忘れず、患者様に教えていただきながら毎日の診療を重ねています。一人ひとりの出会いを大切に、優しさのある医療を心がけています。

東洋英和女学院同窓会は「一般社団法人」を目指します

2025年6月7日の東光会、大学院および学院同窓会総会の席上で、「一般社団法人東洋英和女学院同窓会東光会」を目指すための準備を開始する旨の議案が承認されました。それからはや8ヶ月、一般社団法人化委員会を中心に「定款」の検討を進めてまいりました。

このたび楓園第101号の発行に合わせ、各役員会において承認を得ました「定款案」を、東洋英和女学院同窓会ホームページ上でご覧いただけるようになります。2026年6月6日開催予定の総会にて承認後、「一般社団法人東洋英和女学院同窓会東光会」設立の運びとなりますので、下記ポイントを参考にご覧をお願いいたします。

～定款案のポイント～ ※定款案は全13章で構成

【第2章 会員】

会員は正会員(東洋英和女学校、東洋英和女学校高等女学科、及び東洋英和女学院高等部を卒業した者)、大学院会員、短期大学会員、会友、特別会員の5種とする。

【第3章 代議員】

代議員(法人の意思決定に参加する権利を有する構成員)は、正会員の中から会員総会によって選任された者とする。

【第4章 会員総会】

会員総会は、すべての会員をもって構成する。
権限の項目に、会員による代議員選挙を行う旨を記載する。

【第5章 代議員総会】

代議員総会は、すべての代議員をもって構成する。
権限の項目に、理事、監事、会長及び副会長の選任の決議を行う旨を記載する。

【第6章 役員】

本会に理事(5名以上30名以内)、監事(2名以内)を置く。
理事のうち1名を会長(キリスト教信者)、4名以内を副会長とする。

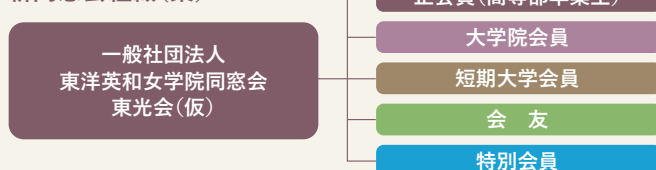
【第7章 理事会】

本会に理事会を置く。
理事会は本会の業務執行の決定と理事の職務執行の監督を行う。

現在の任意団体を卒業し法人化することで、同窓会の運営基盤が整備され、活動の安定性が高まります。また会計や財産の管理が透明化され、社会的な信頼性も向上します。これにより同窓生が今まで以上に安心して参加できる環境が整い、同窓会組織としての発展とつながりの強化が期待できるに違いありません。

「学院と共にある同窓会を目指して」

新同窓会組織(案)

こちらから定款案が
ご覧いただけます
<https://www.toyoeiwa.ac.jp/dousoukai/doso-houjinka.html>


【同窓会からのお知らせ】

永眠者名簿の受付は、2026年度より毎年6月30日までといたします。
締切り以降のお届けは、翌年の追悼になりますことをご承ください。

出流山満願寺訪問記

— 戦後80年によせて —

栃木県栃木市出流町にある真言宗智山派出流山満願寺は、坂東三十三観音第十七番札所として知られますが、キリスト教学校である東洋英和とはどのような繋がりがあ

るのでしょう。
先の大戦中、都市部への空襲が激しくなったため、1944年8月に東洋永和女学校附属初等学校(現 東洋英和女学院小学部)の集団疎開が始まり、縁故疎開ができない児童は、学校単位でまとまって学習と生活の場を移すことになりました。疎開先として出流山満願寺が指定され、児童たちは1945年10月まで過ごしました。

その満願寺へ学院として戦後80年を機に感謝を伝えるため、2025年8月29日(金)、高橋貞二郎院長、楠山眞里子学院顧問、小学部教諭3名、史料室職員2名が当地を訪れました。お迎えくださったのは、現在のご山主(住職)竹村教誠様と、竹村レイ子様、稲野厚子様、祥子様(いずれも

卒業生)、厚子様のお孫さんの稲野絢子さん(在校生)の4世代にわたる英和生の方がたです。

広い境内ではかつて児童たちが過ごした建物のあった場所を辿りました。満願寺は山の中にあり上空から位置が特定できなかったため空襲を免れたそうです。また当時の竹村教智ご山主は「御前様」と呼ばれ地域の人々から慕われており、宗教の違いを超えて児童たちを守ってくださったのでした。当時のお話をうかがい、教職員一同、平和の尊さを語り伝えていくことの大切さを再認識する貴重な訪問となりました。

出流山満願寺の山門にて



- 「史料室だより」No.105では特集「寄り添い内省し発信する フォト・ジャーナリスト吉田ルイ子」や、戦後80年にちなみ「〈資料紹介〉東洋永和女学校「クラス日誌」にみる戦時下の学校生活②」などを掲載しています。以下のURLもしくはQRコードからお読みいただけます。

<https://www.toyoeiwa.ac.jp/archives/publications/>

- 法人事務局史料室 TEL:03-3583-3166 / FAX:03-3583-3329 ホームページ <https://www.toyoeiwa.ac.jp/archives/>



後援会より

2025年度後援会総会・役員懇談会のご報告

2025年7月4日(金)、後援会総会を開催いたしました。総会では、それに先立ち役員会にて審議可決された役員改選、2024年度収支決算、2025年度収支予算が報告されました。また、10月10日(金)には、後援会役員懇談会が開催され、後援会役員と学院との間で忌憚のない意見交換を行いました。後援会総会・後援会役員懇談会ともに、会終了後には懇親会が設けられ、学院の教職員の方々と親睦を深める有意義な機会となりました。



2025年度後援会常任役員

大学同窓会 楓美会より

カナダ大使館で大学ハンドベル部の演奏が大好評！

楓美会は社会教育の一環としてカナダ大使館と学びの連携を積み重ねております。この度大学ハンドベル部の演奏をカナダ大使館で開催された『国歌：カナダの多様なアイデンティティを表す』(カナダ国家の歌詞に呼応して制作された作品を特集する展覧会)のレセプションで披露する機会を作ることができました。猛練習を積み「カナダ国歌」と「さくらさくら」を演奏し、スピーチも素晴らしい!と多くのお客様から学生に温かい拍手とお褒めの言葉をいただきました。楓美会は今後も学生の活躍の場をサポートしてまいります。



大学ハンドベル部学生(カナダ大使館にて)

学院同窓会より

大学院修了生による講演会・懇親会を開催しました

2025年7月5日(土)、東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科、国際協力研究科、大学院同窓会は、修了生による講演会ならびに懇親会を開催しました。

講演会では、東洋英和女学院大学死生学研究所客員研究員 瀬川博子さん(人間科学研究科2022年博士後期課程修了)と、東京大学先端科学技術研究センター連携研究員 松本栄子さん(国際協力研究科2012年修士課程修了)に講演を行っていただきました。

懇親会では、旧知を温めお互いの絆を深めた一日となりました。



大学院修了生懇親会(本部・大学院棟にて)